
プロジェクト報告

「紛争解決と平和構築—欧州と東アジアの 比較研究—」2018－2019.3. Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity

羽 場 久 美 子

本プロジェクトは、2018年度、以下の問題意識と課題追及の下、1年間の研究活動と、2回の国際会議（添付）を行い、Proceeding Book, *Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity*, Aoyama Gakuin University, 2019. を刊行した。

末田センター長と国際研究センターのご支援に心より感謝する。

問題設定：

冷戦終焉後、地域紛争はむしろ拡大し、紛争の火種は東アジアにまで広がっている。欧州は歴史的に1500年を超えて紛争と対立を繰り返してきたが、エネルギーと経済の共同により5億人28か国に及ぶ市場を形成している。BREXITでイギリスがEUから離脱するという状況が現れ、大陸でもポピュリズムが成長したが、それでも欧州では地域の統合および協力こそが、欧州大陸の平和と安定、繁栄を作ることが今でも合意され、紛争を対話と協調により解決する努力がなされている。

本プロジェクトでは、近年緊張関係を生んでいる東アジアの状況、とりわけ、日本の世界経済における力の縮小、中国の経済的影響力の拡大、北朝鮮の核ミサイルの脅威などの下で、いかにして紛争解決と平和構築の方策を見出しうるかを考えようとする。

とりわけ欧州の冷戦期に東西市民の代表により形成されたCSCE（全欧安保協力会議：冷戦終焉後にOSCE（全欧安保協力機構）に名称・機構変更）にみられる、市民連携、地域連携、国際連携の共同に焦点を当て検討する。それにより、東アジアで、例えば6者協議（北朝鮮の核をめぐる近隣大国の話し合いの会議）を基礎に、市民対話、学術対話、メディア対話、文化交流を中心とする対話と交流による東アジアの紛争解決と平和構築を実現できないかを構想するものである。

プロジェクトでは、2018年12月と2019年3月に二つの国際会議を開催し、それを Proceeding Book として刊行した。字数制限もあり、Kent Calder の論文と、羽場の論文に限ったが、世界的に著名な研究者をアメリカ、国連、フランス、ロシア、イタリアから招き、大きな成果と高い評価を得ることができたと考えている。以下の国際会議の内容は、Proceeding Books に収録され、合同研にもお預けしている。お読みいただければ幸いである。国際研究センターには心より感謝を申し上げたい。

プロジェクト代表、羽場久美子（青山学院大学）